

第2節 新しいライフスタイルを求めて

人生80年時代

長い道のり、子どもと子育て



子どもは1人か2人？

DINK(S) という言葉をご存知ですか。

Double Income No Kids の略で、2人とも収入があつて子どもをつくらず、生活をエンジョイしている夫婦のことをさす。

No Kids (子どもなし) とまではいかなかったも、子どもの数は減っている。横浜市の出生率は年々低下、61年には人口千人に対し11・4人と、戦後最低を記録した。

また、1人の女性が一生の間に産む子供の数(合計特殊出生率)は、全国で1・72人、横浜市ではさらに少なく1・62人。

この少産傾向は、女性の高学歴化や社会進出による晩婚化、家族観の変化などが理由だといわれている。

いぜん高い進学熱

市の調査によると、小学校5年生の40%が学習塾・進学塾に通っている。また、5年生の子をもつ母親の54%は、将来子どもを大学まで行

かせたいと望んでいる。

市内の中学校卒業生の進学率は、ここ数年はほ一定で95%、ほとんどの生徒が高校へ進む。

高校卒業生の進学率(現役)はこのところ減っており、62年3月には30%。男子は大学へ進学する人が圧倒的に多く、女子は大学より短期大学へ進学する人が多い。

最近の傾向として特徴的なのは、男子の現役の大学進学率がグングン下がっていることで、56年の36%から62年には23%へと減少した。

もうひとつ注目されるのは、専門志向が高まっていることで、高校卒業後に専修学校の専門課程に進む人や、大学を卒業して大学院などに進学する人が増えている。

なかなか結婚しない若者たち

何かに決めたがらないモラトリアム志向を反映してか、独身貴族が楽しいのか、最近の若い人たちは結婚するのが遅くなっている。

市内の20〜24歳の男性の94%、女性の82%が

独身で、特に男性は、25〜29歳で65%、30〜34歳でも3人に1人は未婚だ。これに対し女性は、25〜29歳の時に3人に1人が独身という割合。

初婚の平均年齢は男性29歳、女性26歳。最近適齢期という言葉はあまり聞かれなくなった。

目立つ熟年離婚

結ばれるカップルが減っているのに対し、別れるカップルは増えている。58年をピークに低下していた市民の離婚率は、最近また緩やかな上昇傾向にある。

なかでも、同居期間の長い夫婦の離婚が目立っており、10年以上一緒に暮らした場合が離婚全体の43%を占めている。

子どもの独立後も長い人生

市内の男性の平均寿命は76歳、女性は81歳。人生まさに80年時代だ。ライフサイクルの図から分かるように、子どもが独立してから男性は15年、女性は24年もある。男性の15年というのは、ちょうど退職後の人生でもある。いずれに

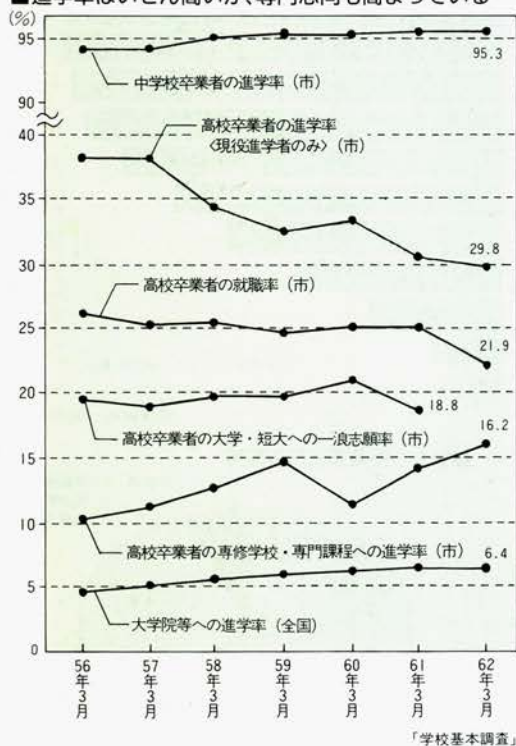
Life Style

■市民の男女別ライフサイクルと家族

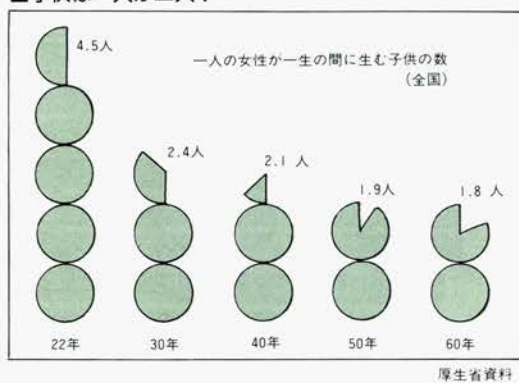


「学校基本調査」(昭和60年) 「人口動態統計」(昭和60年) 「雇用動向調査」(昭和62年度)

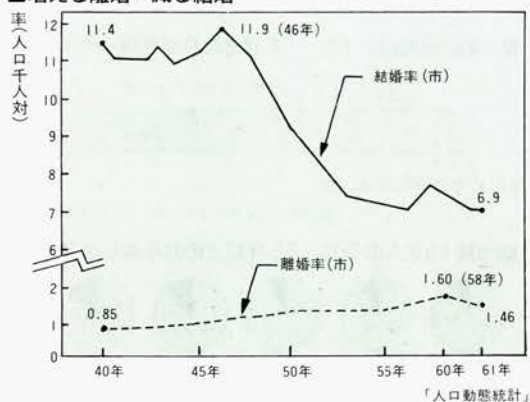
■進学率はいぜん高いが、専門志向も高まっている



■子供は一人か二人?



■増える離婚・減る結婚



Life Style

しろ、この期間がこれだけ長いと、もう余った人生すなわち「余生」とは呼べない。「第2の人生」と言われる所以は、ここにある。

こうした「第2の人生」を意識してか、老後は趣味や旅行、文際などを楽しみたい、という「老後エンジョイ派」は市民の約半数。仕事を続けたい「勤労派」を上回っている。

また、何歳ごろからを老後と考えるか、というと平均は66歳になるが、その年齢になってみると、老後はまだ先というのが実感のようだ。実際、65歳以上の人は、70歳あるいは75歳を老後と見ている。老後の始まりは、それぞれの人の気の持ちようで決まるものだろう。

そして「古い」は、だれにでもやってくるわけで、出生率の低下とも相まって、社会は高齢化していく。65歳以上のお年寄りは60年には横浜市で14人に1人、全国では10人に1人。推計では75年には、全国で6人に1人の割合になる。増えるがん、心疾患

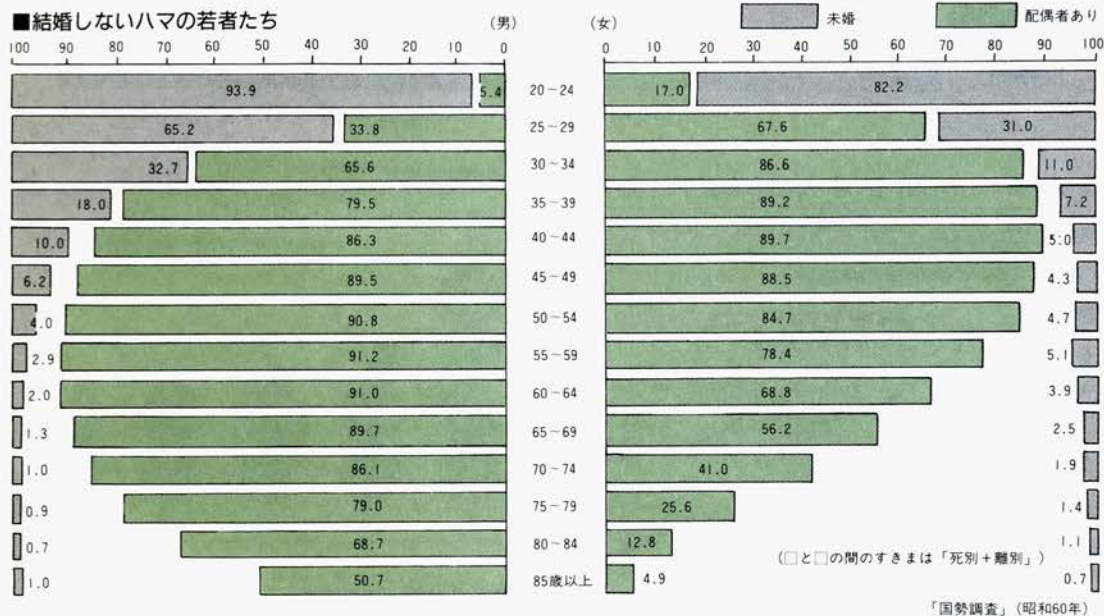
横浜市の人口千人当たりの死亡率は4・5。ここ数年、変化はない。

がん等の悪性新生物で亡くなる人が一番多く、全体の4分の1以上でいぜんとして増えている。60年に心疾患が脳血管疾患を抜き、死因の2番目になり、この3つで全体の62%を占める。

少数家族時代

核家族化が言われて久しいが、現在、横浜市の平均世帯人員は約3人と少数家族。

■結婚しないハマの若者たち



■7割の市民は、65～70歳あたりが老後と考えている。



※回答者の平均=66.1歳

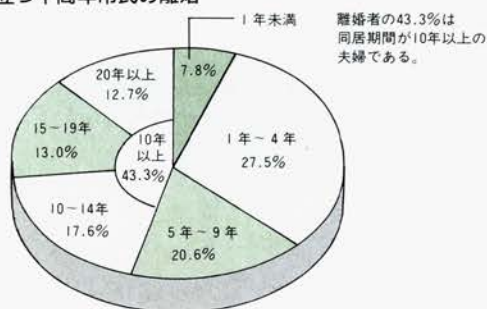
横浜市「福祉サービスに関する市民意識調査」（昭和61年度）

■市民100人のうち、65才以上のお年寄りは7人



「国勢調査」、厚生省人口問題研究所「日本の将来人口推計」（昭和61年）

■目立つ中高年市民の離婚



離婚者の43.3%は同居期間が10年以上の夫婦である。

「人口動態統計」（昭和61年）

Life Style

おもしろ市民データ

子どもは少なめに産んで、十分な教育をうけさせるのがよい

43%

最近の幼い子どもはしつけがあまりよくない

58%

理想の夫婦とはそれぞれが仕事・趣味をもち、個人の生活を大事にしている夫婦である

46%

老後は積極的に社会参加したい

50%

最近、親子の信頼感がうすくなっている

47%

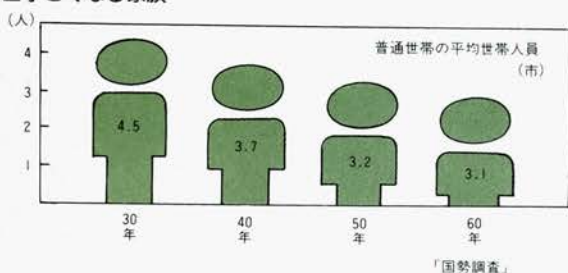
ほとんど毎日家族そろって夕食をとる

37%

理由としては、出生率が低下していることのほか、若い単身者が数多く移り住んで来ていること、高齢化が進み高齢者の一人暮らしが増えたこと、また離婚率が上昇し、母子家庭、父子家庭が増えたことなどが考えられる。

1人世帯は、55年から60年の5年間で18%増えたが、特に60歳以上の高齢者の1人世帯は、この間40%も増え、3万世帯にもなった。また、

■小さくなる家族



同じ55年からの5年間に父子世帯は30%増、母子世帯は21%増で、あわせて6万世帯で

ある。

さて厚生省の推計によると、2000年の全国の平均世帯人員は、現在よりさらに減って2・89人。そのとき、家族はどうなっているだろうか。

1章2節 利用データ一覧 (図表下に記してあるものを除く)

テーマ	調査名	発行	年月
暮	国民生活に関する世論調査	総理府	各年
衣	現代青年の生活と価値観	総務庁	61年
食	国民生活時間調査	NHK	各年
住	大都市圏の住宅・宅地に関する世論調査	総理府	61年
//	国民生活白書	経済企画庁	62年度
//	老人の扶養意識調査	横浜市	59年度
//	市民の日常生活に関する調査	横浜市	62年度
医	市民医療に関する資料集	横浜市	61年度
//	市民の日常生活に関する調査	横浜市	62年度
職	市民意識調査	横浜市	58・61年度
//	中高年ホワイトカラーの勤労意識	労働省	60年
充	市民意識調査	横浜市	61年度
遊	国民生活に関する世論調査	総理府	各年
//	余暇と旅行に関する世論調査	総理府	61年
//	市民利用施設等将来計画調査	横浜市	62年度
//	雇用動向調査	横浜市	61年度
交	国民生活時間調査	NHK	60年
//	国民生活に関する世論調査	総理府	各年
情	市民の日常生活に関する調査	横浜市	62年度
金	国民生活に関する世論調査	総理府	62年
//	市民意識調査	横浜市	各年
//	老人の扶養意識調査	横浜市	59年度
//	市民の日常生活に関する調査	横浜市	62年度
生	国勢調査	総務庁	各年

■がんや心疾患で死亡する市民が増加

